

# 設立趣意および 役員・評議員プロフィール

特定非営利活動法人  
運転免許取得支援センター

Japan Association of Promoting Independence for People with Physical Disabilities -providing total support for obtaining driver's license-

ご連絡は東京支局 TEL 03-5366-4770 e-mail [kamikawa@for-dab.jp](mailto:kamikawa@for-dab.jp) まで

URL:<http://www.for-dab.jp>

## ■ 役員・評議員一覧

**役員**（役職ごとのあいうえお順・敬称略）

鈴木憲一 代表

神川麻紀 常任理事

木村良二 常任理事

進藤範彦 常任理事

秋吉邦郎 理事

木村良二 理事

小山登 理事

佐々木浩 理事

川井英行 監事

**評議員**（あいうえお順・敬称略）

秋山哲男 北星学園大学 交通計画(観光計画) 客員教授

内田竜生 内田クリニック 院長（元関東労災病院 リハビリテーション科部長）

江藤文夫 国立障害者リハビリテーションセンター 総長

大西勇治 早稲田大学理工学部経営システム工学科客員教授（MOTプログラム担当）

君塚葵 心身障害児医療療育センター 所長、社団法人日本リハビリテーション医学会  
理事、全国肢体不自由児施設運営協議会 会長

齋藤宏直 特定非営利活動法人みやぎこうでねいと 理事長

高橋紘士 立教大学 コミュニティ福祉学部 教授

藤井直人 （元）神奈川県総合リハビリテーションセンター 研究部 生活支援工学研究  
室

長 神奈川県立保健福祉大学 リハビリテーション工学 非常勤講師

**賛同・協力者**

鈴木篤 江戸川法律事務所・弁護士（東京弁護士会所属）ほか

## 特定非営利活動法人運転免許取得支援センターについて

### 1. 設立趣旨（2002年設立準備委員会より）

現在、政府主導による障害者自立支援法・新障害者雇用促進法等の法制化の下に、関連身体障害者団体及び関連業界等のご協力、ご指導により、障害のある人達（加齢によるハンディキャップ者である中高年者・障害児含む）が地域社会でより生活し易い環境を造るべく努力がなされていますが、障害のある人達が学業、就労、通院、買物等の日常生活を営むにおいて、未だ十分な環境が整備されている状況ではありません。

又、国土交通省が推進する主要駅のバリアフリー化、主要建物のバリアフリー化等々は、大都市を中心に行われており、地方に住む障害のある人達にとっては未だ人的バリアフリーに頼らざるを得ない状況です。

「くるま」は、障害のある人達にとり重要なツールであり、障害のある人達の社会参画や自立支援を含め、自操式の「くるま」周辺の環境整備、主に「くるま」を運転する為の免許取得及び障害のある人達に優しい教習環境の整備をハード面・ソフト面から行っていく必要があります。

かかる状況に鑑み将来の高度福祉国家、日本として、政・官・民及び関係機関団体等との連携・協業を前提に、障害のある人達が「くるま」をより身近なツールとして活用出来る社会環境の整備が求められております。

私たちは、片腕・片足に障害のある人から重度障害のある障害者（加齢によるハンディキャップ者である高齢者・障害児を含む）に対し、日常生活に必要な“自立支援”と“移動”に関し、その環境整備を支援するための活動を行います。特に“移動”に重要なツールとなる「くるま」の運転免許取得支援に重点をおき、その教習環境のよりよい環境づくりを促進します。身障者（加齢によるハンディキャップを含）の為の「くるま」周辺の技術改良・開発等の活動支援を行います。

また上記活動を通じ、障害のある人の自立支援の観点から、障害を持つ高校生・大学生の学生支援や、障害のある人の就労支援、高齢者支援、メンタルケア等のサポートを含め、障害のある人の自立に関し必要と思われる活動を推進します。以上の活動のため、私たちは「特定非営利活動法人運転免許取得支援センター」を設立し、その活動をもって障害のある人ご本人またはその家族のみならず、障害のある人の暮らす地域社会または国民全ての社会福祉に広く寄与するものであります。

## 役員・評議員プロフィール

### ■ 役員（役職ごとのあいうえお順・敬称略）

代表 鈴木憲一（特定医療機器賃貸及び販売管理者資格）

1955年生まれ。東京都出身。昭和54年東京三菱自動車販売㈱入社後、営業として28年、内特装車扱いを20年行い、「血液輸送車」「テレビ劇用車公式改造車」「福祉車両（スロープ型福祉車）（四肢障害者用車両）（ユニバーサルタクシー）（軽福祉タクシー）」などの共同開発を行う。福祉車両の普及の先駆けとして三菱自動車の開発、販売支援、広報にも携わる。日本自動車工業会 福祉車両部会に参画し、三大福祉展はじめ各福祉展に取りまとめ役として参加した。その他大手福祉会社、大手レンタカー会社担当など福祉車輛を主軸に多方面で活躍を見せた。同社退職後、当団体の活動に従事。障害のある人の自動車架装や教習所のバリアフリー化など専門性を発揮している。国交省認定ボランティア福祉車両講習会講師、福祉車両安全運転啓蒙促進講習会講師。

常任理事 神川麻紀（介護福祉士・東京都相談支援員・特定医療機器賃貸及び販売管理者資格ほか）

1967年生まれ。当団体の創設者。某大手企業グループの経営企画室広報部勤務の後、企画編集・広告等のプロデューサー、医療福祉の専門紙の記者に。新聞社を退社後、障害のある人のライフラインに係わるプロジェクトや当時先駆的であった美術館の音声ガイドシステムなどの立ち上げを行う。また医療専門誌の編集長としても活躍。学生時代から23年、障害のある人、高齢者、難病の小児を持つ家族ケアなどの活動に係わる。季刊誌チェアウォーカー「WaWaWa」などに活動が掲載される。宮城県で平成14年に災害時の提案を県庁に行い、「ボランティアコーディネータセンター設置のための調査・研究」などを行うなど。介護福祉士（サービス提供責任者：介護分野）としても高齢者・障害者の支援・ケアワークにかかわる。

常任理事 木村 良二（厚生労働省「福祉作業所あり方検討委員会 元委員」）

昭和48年4月沖電気工業株式会社に入社し、営業部門、生産管理部門、人事総務部門を経て、平成8年初代社会貢献推進室長。企業らしい社会貢献活動を探求し、その中の一つである重度身体障害者のパソコン活用による在宅雇用を平成10年に立ち上げる。平成16年に特例子会社沖ワークウェルとして独立させ、取締役社長に就任。障害のある人の経験、特性、感性を活かした経営を行う。社会福祉法人東京コロニー 常務理事、東京都港区障害者程度区分審査会副委員長、在宅就労支援団体における就職支援推進事業委員会委員（独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構）ほかNPOや教育機関の委員等を務める。当団体設立時より活躍、平成25年から東京コロニー役員と当団体兼務。

常任理事 進藤範彦（税理士・東京都相談支援員資格保持者）

1946年山形県生まれ。1歳半の時、ポリオ罹患。両下肢運動機能全廃。小学校から大学まで普通校に通う。学生時代は友人に恵まれ、通学も含めて学業のサポートを受ける。大学卒業後、拓殖大学会計学教授の研究室に職員として在職。知人の紹介で税理士事務所に10年間勤務し、その後、独立。税理士。社団法人全国脊髄損傷者連合会 元理事。財団法人バリアフリーシステム開発財団 監事。

理事 秋吉 邦郎

1960年生まれ。公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会の全国障害者総合福祉センターの中間管理職として、25年間勤務。様々な障害者団体との会議や障害者福祉センター等職員の研修会の企画、立案、開催等の各種業務に長く携わる。アビリンピック競技大会(香港大会)同行。アジア太平洋障害者リーダー育成事業研修でベトナム等に出張など。同協会を退職後、当団体の各種業務に携わる。社会科養護教員免許、知育レッスン・幼児運動インストラクターなど障害児教育に関わる資格保有。

理事 小山登

1973年 千葉大学工学部工業意匠学科を卒業後、トヨタ自動車デザイン部門担当部長として、34年間勤務。その間、米国NY州 Pratt Institute 大学院に2年間留学し修士号取得後本社に戻り、その後、米国人 Calt Design Research 社で役員を6年間勤める。また、本年3月まで、トヨタテクノミュージアム産業技術記念館副館長を務める。現在、公立大学 産業技術大学院大学 創造技術専攻 教授。国際ユニヴァーサルデザイン協議会国際委員長、国立大学法人京都工芸繊維大学講師、同大学特任教授、国立大学法人千葉大学講師。2008年 第1回ドイツユニバーサルデザイン賞審査員、日本デザイン学会会員、日本感性工学会会員。主な著書に「人間工学とユニバーサルデザイン」(日本工業出版\*「ユーザビリティ・アクセシビリティ・ものづくりマニュアル」共著)、第2回国際ユニヴァーサルデザイン会議における「海外有識者に聞く」インタビュー記録など。

理事 佐々木 浩

障害児の音楽教師として活躍。障害児のピアノのプライベートレッスンや子供の情操教育の音楽カンファレンスを行う。その後、障害のある人の要望から平成元年福祉移送業務「目黒チェアキャブ」設立し、障害者移送などに尽力する。その活動は24時間TVなどで放映される。近年は当団体の役員を務める一方で、日印友好関係活動促進でインド財団の路上生活者救済活動にも参画。

監事 川井英行 \*監事の経歴略

#### ■ 評議員 (あいうえお順・敬称略)

秋山哲男 北星学園大学 交通計画(観光計画) 客員教授

都市のユニバーサルデザイン、道路・交通ターミナルのバリアフリーデザイン・サインシステム、高齢者・障害者のモビリティ確保を前提としたバス・STサービスなどの生活交通に関する研究に従事。主な社会活動に、日本福祉まちづくり学会の副会長・事業委員長、土木学会高齢者交通研究委員会の委員長、第10回高齢者・障害者のモビリティと交通に関する国際会議(TRANSED2004)の実行委員長、米国 Transportation Research Board(TRB), Committee of Transportation Accessibility の委員等など。編著に「バスはよみがえる」「高齢者会の技術6巻移動と交通」「高齢者会の技術7巻まちづくり」など。首都大学東京大学院都市科学研究科 教授として勤務後、現大学へ移籍

内田竜生 内田クリニック 院長、元関東労災病院 リハビリテーション科 部長

1984年、整形外科教室入局関東労災病院にて臨床研修。1988年、珪肺労災病院 整形外

科勤務。1989年、産業医科大学 第一解剖学教室助手。1992年、オーストラリア Royal Adelaide Hospital Spinal Unitにて研修。1995年、関東労災病院 リハビリテーション科 部長就任。1998年、関東労災病院 勤労者リハビリテーションセンター長就任。2007年、内田クリニック 開院し、院長就任。日本職業災害医学会 評議員。研究分野は「脊髄損傷者の死因統計に関する研究」「筋収縮閾値以下の電気刺激の有効性に関する研究」「痙性の定量的評価に関する研究」など。

江藤文夫 国立障害者リハビリテーションセンター 総長

1946年生まれ。1972年、東京大学医学部医学科卒業。1974年、同老年病学教室（老人科）に入局。高齢者、障害者の医療に広く関わるとともに神経研究室に所属し、転倒、寝たきり、脳不全（認知症）を主要テーマとして研究にも従事。1984年、同附属病院理学療法部講師、1993年、獨協医科大学リハビリテーション科学教室教授、1998年、東京大学医学部教授就任。病院理学療法部を2001年にリハビリテーション部として改組し、大学院医学系研究科にリハビリテーション医学分野を開設し、大学院教授に移行。2005年10月、国立障害者リハビリテーションセンター病院長、更生訓練所所長を経て、2011年2006年4月より国立障害者リハビリテーションセンター 総長に就任。

大西勇治 早稲田大学理工学部経営システム工学科客員教授（MOTプログラム担当）

1939年生まれ。昭和37年昭和電工（株）入社。信濃大町工場、中央研究所、軽金属加工研究所、本社軽金属事業部営業部技術開発課を歴任。82年スカイアルミニウム（株）へ出向、同社技術部、深谷工場、開発営業部などを経て、99年定年退職。在職中は一貫して自動車、建材用などの材料、加工の研究開発に従事。2001年ボストン大学ビジネススクール入学、02年卒。現在は早稲田大学理工学部経営システム工学科客員教授（MOTプログラム担当）、筑波大学知財統括本部産学リエゾン共同研究センター技術移転マネジャー。

君塚 葵 心身障害児総合医療療育センター 所長、社団法人日本リハビリテーション医学会 理事

18歳以下の障害のある子の医療第一人者として知られる。心身障害児総合医療療育センター 所長、社団法人日本リハビリテーション医学会 理事。学会、各官公庁の専門委員等に多く参画。

齋藤 宏直 特定非営利活動法人「みやぎこうでねいと」 理事長

昭和28年生まれ。仙台市青葉区在住。NPOみやぎ「こうでねいと」 理事長、NPO障害者入居サポートセンター 代表、NPO法人フォレスト秘書センター代表、有限会社PNC代表取締役、財団法人みやぎ産業振興機構 新規事業・バイオ事業専門家登録、日本カウンセリング学会 正会員、平成19年より既存アパートなどを活用した地域密着型グループ・ケアホーム「ファミリアハウス」の地域展開を進める。

高橋紘士 立教大学 コミュニティ福祉学部教授

大学卒業後、1971 東京大学 社会学研究科 社会学専攻 修士課程 修了し、1971 特殊法

人社会保障研究所 研究員に。1984 法政大学社会学部 教授、立教大学社会学部社会学科教授を経て、1998. 4～現職。1990. 1～90. 3 フンボルト大学 社会学研究所 交換研究員。東京都高齢者保健福祉計画作成委員会委員長ほか。執筆には『福祉と医療 --リーディングス日本の社会学 15--』（東京大学出版会・共編著書）、『福祉と医療』（東京大学出版会・共編著書）、『福祉の立場』（筒井書房・単著書）など。

藤井直人 神奈川県立保健福祉大学 講師

昭和47年早稲田大学理工学部卒業、昭和48年より神奈川県総合リハビリテーションセンター勤務。神奈川県総合リハビリテーションセンター 研究部 生活支援工学研究室長を今年（平成23年2月）を退職。現在は、神奈川県立保健福祉大学の非常勤講師、などいくつかの教育機関で教鞭をとる。また神奈川県総合リハビリテーションセンターにて、研究を続ける。高齢者・障害者の交通手段の研究、褥創（じょくそう）予防の研究、福祉機器関連研究開発に取り組み、移乗介護機「マイリフティ」等を商品化。県委託事業の福祉機器評価モニター事業に取り組み。著書に「高齢社会の技術5福祉機器」、「上手に使おう！移乗関連器具」、翻訳「褥創」など。

#### ■賛同・協力者

鈴木篤 江戸川法律事務所・弁護士（東京弁護士会所属）

長野県出身、東京大学卒業。医療・医薬に関する弁護士の第一人者。東京HIV訴訟原告弁護団副団長などを務める。